

## 鳥取大学教育研究林の近況

鳥取大学農学部附属フィールドサイエンスセンター

令和5年5月8日に新型コロナが5類感染症に移行されて以降、一般的な感染症対策（手洗いの励行など）は必要なものの、コロナ禍前の状況に戻つつある。延べ利用者は約1,700人とほぼコロナ禍前の水準に回復した。また、学外者主催の実習が4年ぶりに実施され、外部利用も増加してきた。一方で、宿泊利用者数は約500人とコロナ禍前の約半分の水準となっており、宿泊利用者の回復が待たれる。

令和5年8月の台風7号では教育研究林三朝の森において、林道の崩壊（写真1）、路面の侵食、集水桝の閉塞（写真2）など大きな被害を受けた。文部科学省の災害復旧補助金に採択され、修繕を行った。また、教育研究林蒜山の森では、令和2年のナラ枯れの激害から3年が経過して枯死木の腐朽が深刻になったことから、林道脇の危険木200本を伐倒処理した。宿泊施設の修繕（トイレ壁タイルの張替え）なども行っており、森林および宿泊施設の管理に尽力した。



写真1 路肩が崩壊した林道



写真2 閉塞した集水桝